

福島原発事故関連調査について

平成23年3月、東日本大震災で発生した津波は多くの人命を奪っただけではなく、福島第一原子力発電所の事故を引き起こしました。報道にもありますとおり、この原発事故によって飛散したCs-137（セシウム-137）やI-131（ヨウ素-131）等の人工放射性物質が、土壌や食料品等から検出されました。福島から遠く離れた沖縄県ですが、今回の原発事故時の影響は、どの程度だったのでしょうか？

【放射能のモニタリング体制】

全国の自治体では、文部科学省からの委託事業で「環境放射能水準調査」を実施しており、降水物、上水、土壌及び食品等に含まれる放射性物質を調査しております。

また、それとは別に今回の原発事故に対応するため、同省から全国の自治体に、「モニタリング強化」として、毎日の降水物や上水中の人工放射性物質や空間放射線量の調査を行うよう指示がなされました。

【調査結果】

「環境放射能水準調査」の調査項目の中に「月間降水物」があります。この調査では、1か月間、大型水盤（写真1）に雨水や塵を採取し、それを濃縮して、ゲルマニウム半導体検出器という測定機で試料中のγ線を測定します（写真2）。この調査により、原発事故以後、3月から6月にかけて人工放射性物質のI-131、Cs-134及びCs-137が検出されました（表）。これらの放射性物質は、時間が経過するごとに減少し、7月以降は不検出となっております。

また、「モニタリング強化」による調査では、4月5～6日の降水物に、I-131が検出されましたが、その日以降は検出されておられません。なお、空間放射線量や上水等については、現在のところ人工放射性物質の影響を示す結果は確認されておられません（平成23年12月現在）。

福島原発事故関連の調査結果については、文部科学省や沖縄県のホームページで公表されておりますので、ご参照ください。 【環境科学班】



写真1 月間降水物の調査で使用する大型水盤



写真2 ゲルマニウム半導体検出器

表 月間降水物中の放射性物質（単位：MBq/km²）

	I-131	Cs-137	Cs-134
1月	不検出	不検出	不検出
2月	不検出	不検出	不検出
3月	0.59	不検出	不検出
4月	2.9	4.3	3.7
5月	不検出	0.47	0.49
6月	不検出	0.067	0.087
7月	不検出	不検出	不検出
8月	不検出	不検出	不検出
9月	不検出	不検出	不検出
10月	不検出	不検出	不検出

< 沖縄県の公開ページ >

http://www.pref.okinawa.jp/kurashi_kankyo/index.html#kannkyou